



ウィーンからの便り



ACPF ウィーン駐在代表 Jolanta Redo (ヨランタ・レド)

(今回は、ACPF ウィーン駐在代表のヨランタ・レド氏からの便りを、事業部長吉田が取りまとめてお届けします。)

1 ACPF ウィーン駐在代表とは

ACPF は、2000 年には国連 NGO として総合諮問資格（トップカテゴリー）を取得しましたが、その維持には、国連関連の各種会議に出席して実績を示す必要があります。日本からの参加が困難なため、地域駐在代表の協力が不可欠です。ACPF はウィーンとニューヨークに 1 名ずつ駐在代表がいますが、ウィーンはヨランタさんがその役割を担っているからこそ、ACPF が国連 NGO の役割を保つことができているのです。

2 ヨランタ・レドさんの横顔

ヨランタさんは、ACPF の国連ウィーン駐在代表として、長年、ACPF に貢献されていますが、その経歴は次のとおりです（詳細は[アジア刑政通信第 63 号 \(pp5~9\)](#) 参照）。

専攻 刑法，人権法

経歴

1979-2018 弁護士，ポーランド最高法曹評議会認定，地域連盟（ポーランド，トルン）能力試験最優秀賞

1996-1999 アジア刑政財団国連ジュネーブ（スイス）事務所常任駐在代表

1999-2002 アジア刑政財団カザフスタン，キルギス共和国，タジキスタン，トゥルクメニスタン，ウズベキスタン駐在代表（ウズベキスタン，タシケント在）

1986-2018 国連麻薬委員会，国連犯罪防止刑事司法委員会のアジア刑政財団年代表（毎年）及び国連組織犯罪防止条約，国連腐敗防止条約締約国会議のアジア刑政財団代表（各回）

2002-2018 オーストリア精神障害受刑者に対するボランティア支援（オーストリア司法省名誉賞）

1986-2018 貿易法，逃亡犯罪人引渡，犯罪防止に関する科学的出版物の著者

言語

ポーランド語；英語，ロシア語，ドイツ語（国連能力試験）、スペイン語（実用レベル）、中国語

敷田賞受賞（2018 年 10 月 25 日）

オーストリア・ウィーン在住で、敷田元理事長が国連犯罪防止刑事司法部長（ウィーン）として勤務した際（1982年～1986年）、御主人のスラヴォミール・レド氏が部下として仕え、敷田ご家族とも交流があります。

3 レドさんの最近のウィーン駐在代表としての貢献

最近3か月の国際会議出席等については、次のとおりです。

- ☞ 国連腐敗防止条約締約国会議/国連総会特別会合第1回中間会合におけるNGOへ説明（9月1日）
- ☞ 国連総会腐敗防止特別会議の準備に関する国連腐敗防止条約締約国会議の中間会合（9月2日～4日）
- ☞ 国連国際組織犯罪防止条約締約国会議：人身取引、特に女性と児童作業部会（9月10日～11日）
- ☞ 国連国際組織犯罪防止条約締約国会議第10回会議（10月12日～16日）
- ☞ 国連総会腐敗防止特別会議の準備に関する国連腐敗防止条約締約国会議の中間会合（11月19日～20日）
- ☞ 犯罪防止刑事司法委員会（いわゆるコミッション）の中間会合（11月23日）

このほか、ACPFが加盟する国連犯罪防止刑事司法NGO連盟（Alliance）は、来たる第14回国連犯罪防止刑事司法会議（京都）に向けた市民社会ステートメントの作成に取り組んでいます。

Allianceとは非政府機関と市民社会の利益を考慮して会員相互の協力関係を推進するために設立された犯罪防止刑事司法分野のNGOであり、ACPFを含め世界から61機関とお16名の個人会員が加入しています。レドさんは、Allianceの理事として活躍し、AllianceにはACPFウィーン駐在代表としても毎回会議に参加しています（[Allianceの説明はこちら](#)）。

また、レドさんは、ウィーンでのコロナの状況を適宜知らせてくれます。2020年11月には、ウィーン（人口190万人）で1日1200人の新規感染者を出した状況（単純計算で東京になぞらえると1日8,800人!）とのことで、今後とも気が抜けません。

4 鳳凰来儀

ウィーン国連国際センタービルの1階玄関に円形大ロビー・ロトンダと呼ばれるスペースがあります。そこに、ACPFが1996年に国連創設50周年を記念して寄贈した吉田佐源二画伯の「鳳凰来儀」の大作（タテ2.4m×横7.2m）が飾られており、このビルに出入りする人を見守っています。

「この世に平和が満ち、正義が支配するとき、零鳥・鳳凰が地上に飛来する」（礼記）と脇の銘板に説明があります。この絵が飾られるにはそれ相応の尽力が必要となりますが、その役割を担ったのがヨランタさんを始めとするACPF、そして敷田元理事長の協力者でした。



ヨランタさんは、敷田賞授賞式（2018年10月25日）での受賞の言葉として、ACPFのスローガン「犯罪なき繁栄に向けて」のメッセージが「鳳凰来儀」の作品に込められていることを紹介し、第14回国連犯罪防止会議が総合テーマとして取り上げる国連の持続可能な目標（SDGs）にも触れ、京都コンGRESS成功に向けたACPF会員の貢献を呼びかけました。

折しも、2020年12月に発刊される「2030年の犯罪防止と司法-国連と世界人権宣言 Crime Prevention and Justice in 2030 – The UN and the Universal Declaration of Human Rights」（Helmut Kury、Slawomir Redo Editors（ヨランタさんのご主人）が監修・執筆 者多数・Springer社発行）にはこの鳳凰来儀の写真が掲載されることになりました。

アジア刑政財団が国連NGO総合諮問資格（トップカテゴリー）を得て活動を継続していくために、国内はもとより海外の方々の支援に支えられていることを、ご理解くだされば幸いです。

以上